



6・7工区担当 建設監督官 増田寛四郎



6工区担当 建設監督官 中村恭介



7・8工区担当 建設監督官 小丸博司



8工区担当 建設監督官 栗間和也



近畿地方整備局
和歌山河川国道事務所

近畿圏の活性化に向けた
道路整備が進行中
和歌山エリアのさらなる発展に貢献
道路建設や改良工事、事業を通じて地域の生活と発展を支える和歌山河川国道事務所。
和歌山の地域住民や産業から大きな期待を寄せられる、
京奈和自動車道(紀北西道路)の整備事業とそれに携わる4人の建設監督官をご紹介します。



近畿三都市圏を結ぶ バイパスが担う発展への期待

京奈和自動車道は、その名前の通り「京都」、「奈良」、そして「和歌山」の延長約120kmの高規格幹線道路*です。これまで高速道路のなかったこのエリア

に京奈和自動車道が開通すれば、三都市間の行き来に要する時間が大幅に短縮されます。加えて、関西国際空港や和歌山下津港など海外の窓口からのアクセスが飛躍的に向上することも、近畿圏および中部圏が一体となった大規模な経済圏の誕生が期待できます。

既に和歌山県内においては全体の7割に近いルートが開通しており、平成26年10月現在、残るルートについても急ピッチで整備事業が進められています。今回訪れた「紀北西道路」は、京奈和自動車道の紀の川市側起点から12.2kmの区間にあたります。

紀北西道路は紀の川市神領の紀の川インターチェンジから岩出市根来で建設が進む岩出インターチェンジ(仮称)を経て、和歌山側のジャンクションにおいて阪和自動車道とつながります。「和歌山県の高速道路は阪和自動車道の一本しかありません。これまで和歌山の方々は、京都・奈良方面に行こうとすると高速道路では阪和自動車道を利用し大阪を経由して行くルートしかなく、代替ルートを選ばませんでした。それを解消するのが、京奈和自動車道です」と語るのは、和歌山河川国道事務所副所長(道路)の河合良治。現在、河合のもとで、4名の建設監督官が全力で紀

北西道路の開通に向けて現場での協議や監督を行っています。

移動時間の短縮や渋滞・事故抑止 地域産業の活性化も

6工区を担当する建設監督官中村恭介は、紀北西道路に地域の人々が寄せられる期待は大きいと言います。「地元は数本の主要道路しかなく、国道24号や県道ではしばしば交通渋滞が発生していました。京奈和自動車道は高規格幹線道路ですが、無料ということもあって、地域の方々にバイパス道路として利用していただけます」

これによって、従来は病院に通うのもかなりの時間を要したのが、高速道路で楽に通院できるようになるなど、時間短縮効果が期待できます。また国道の交通量が減ることで、渋滞や交通事故の抑止にもつながります。事実、紀北西道路から奈良側に延びる平成26年3月に開通した紀北東道路沿線では、並行する国道24号の交通量が3〜4割減少。また平成19年度に開通した橋本道路沿線の国道での死傷事故件数は、年間で約60件減少という効果が既にあり、紀北西道路でも同様の渋滞や事故の抑止効果が期待されています。

一方、産業面での貢献を指摘するのは、

6工区



6工区の山岳トンネル掘削現場。トンネル内に空気を送り込むための太い管がトンネル奥に続く。設計寸法通りか確認するのも中村の仕事

は、7・8工区担当の建設監督官小丸博司です。「この周辺は柿や桃などの名産地として知られていますが、これまで東日本方面への出荷は主には大阪経由でした。しかし全線開通のあかつきには、奈良や京都を経由し、これらの農産物もより迅速かつ大量に出荷できるようになるはずですよ」

また京奈和自動車道沿線では、輸送力の向上に注目した企業が工場を積極的に開設しています。すでに沿線全体では11の地区で自治体の主導による産業団地の立地が進行中です。紀北西道路



建設中の橋脚の基礎部分
を真上から見たところ

組まれた鉄筋を
確認する小丸



紀北西道路の中でもっとも高所作業の多い7工区の現場。赤茶色の橋脚は工事用の仮設橋で実際の橋脚はその下の鉄筋が組まれている箇所から作る。一番高いところでは高さ約100mにもなる

7工区

沿線の紀の川市でも、和歌山県土地開発公社による北勢田ハイテクパークの開発が行われています。
6工区を担当する建設監督官増田寛四郎は、沿線住民の声によって京奈和自動車道への意外な効用に気づかさ



県道が土で汚れていないか+αの視点で現場をチェックする増田。気になるところは写真で記録していく



7工区岩出IC近くの現場。観光客も多く利用することが予想されるので、橋脚には擬石模様の型枠を用いるなど周辺環境に配慮

れたと語ります。
「道路が開通したら、息子が帰ってきてくれる。孫が度々家に来てくれるといった期待をあらかじめ伺っています。これは、私自身予測しなかったメリットでした。やはり若い人は進学や就職で京都、奈良などに出て行くことが多く、そうした方々が気軽に故郷と行き来でき

ようになったと思います」

このほかにも和歌山の豊かな観光資源への、外国人も含めた観光客の呼び込みなど、新しい道路のもたらす地域発展効果は多くあります。

地元への理解促進 そして工事の安全確保が 何よりも大事

幅広いエリアに及ぶ道路整備事業は、地域住民の理解と協力がなくては、とつて進めることができません。建設監督官たちは、地元の方々とのコミュニケーションを通じた事業への理解・協力の促進を何よりも大切に考えています。

「基本は、自分の住む家の近所につきあいで同じです。実際の工事を担当する施工業者の方にも、地元の皆さんに会うときには忘れずに挨拶をして欲しいといったことを繰り返しお願いしています。また、地域の道路清掃や草刈り、お祭りなどにもできるだけ参加させてもらい、「コミュニケーションを図るように努めています」(中村)



各工区で行われた見学会の様子。6工区(上)の見学会は周辺地域の方々を招待。8工区(下)では小学生を招き、掘削した土で花の苗作りも行った

ば、工事の予告なども随時伝えられます。騒音が出るような作業も、あらかじめ話をしてあるかどうかで、地域の方々の受け止め方はまったく違ってきます。中村は強調します。

地域への理解促進には、積極的なPR活動も重要です。8工区を担当する建設監督官栗間和也は、自らパソコンを駆使してパンフレットを作り、地元の小学校に現場見学会を呼びかけたり、看板を設置したりといった工夫を凝らしています。

「私はこの4月に和歌山に着任したのですが、この京奈和道路の整備事業がまだまだ対外的に知られていないことに驚きました。そこで阪和自動車道から見える場所に看板を設けたり、紀ノ川サービスエリア内にPRのパネルを置かせ



栗間が作成した見学会案内のチラシ。参加しやすいようデザインやタイトルにも工夫を凝らしている

8工区

測量機で工事の仕上がり高さをチェックする栗間



8工区は一番最後の短い区間だが山の切土が多い現場。現場は紀ノ川SA(写真左側)から進入している



てもらうなどの試みを行っています」
そしてPRR以上に重要なのは、工事の安全です。紀北西道路はトンネルや山あいの高所を通る橋梁が多く、一方で鉄道や生活道路に隣接した箇所もあるなど、作業員はもろもろ周囲の住民も含めた安全確保への取り組みが一段と要求されます。
その基本となるのは毎月一回、建設監督官と各事業者が一堂に会する「安全協議会」です。ここでは工事の安全に関するあらゆる情報が交換され、また改善が必要な事柄については必ず報告や指示が行われます。建設監督官自身もそれぞれに、この場を活かして安全の徹底に努め

ていると言います。

「現場を見回った際に気が付いた安全上の問題箇所を写真に撮って、安全協議会でその写真を配布・共有して安全意識を高めてもらうようにしています」(中村)、「他の工区や事務所で発生した事故の情報を協議会で紹介し、貴重なケーススタディとして活かすようにしています」(増田)、「高所作業の多い工区なので、転落災害には非常に気を使うよう協議会でも繰り返し呼びかけています」(小丸)といった各建設監督官の言葉に、この協議会が工事の安全を守る重要な柱になっていることがわかります。

**「地図に残る仕事」を合言葉に
完成の日に向けて前進**

長い年月と多くの地域住民の理解と協力に支えられて、ようやく完成を迎える道路整備事業。その供用開始の瞬間が、何よりこの仕事のやりがいを実感できると建設監督官たちは口々に語ります。

「よく言われることですが、『地図に残る仕事』というのがありますね。そもそもこの仕事を目指した動機には、大きなプロジェクトに携わりたいという気持ちがありました。そつした意味で、今回のような大規模の道路整備事業

は達成感もひとしおです」(中村)

また増田も、「以前の現場で開通式の時、取材のカメラマンを見晴らしの良い場所に案内したのですが、走り初めの車列が視界に現れた瞬間、思わず小さくガッツポーズしていました」
このほかにも地元の見学会で住民の方々が楽しそうに笑顔で現場を見ている姿や、開通式の車列を先導するパトカーがトンネルから現れた瞬間、地域住民の方々から大きな歓声が挙がったことなど、建設監督官たちのうれしい思い出は尽きることがありません。

平成27年度の供用開始を目指して、まさに工事の最盛期を迎えている



7工区の現場見学会に参加した小学生たちから届いたお礼メッセージ。ひとつ一つの言葉が作業への励みになったという

P R O F I L E



建設監督官
中村 恭介

平成4年、旧建設省に入省。紀南工事事務所を振り出しに近畿地方整備局管内の各地で道路の改築、修繕工事などを担当。平成26年から現職。



建設監督官
増田 寛四郎

平成3年、旧建設省に入省。各地の国道事務所にて交通安全対策事業および道路維持修繕事業を担当。その後耐震改修、橋梁保全事業などを経て平成25年から現職。



建設監督官
栗間 和也

平成元年、旧建設省に入省。紀の川ダム統合管理事務所で大滝ダム事業等を担当。関西国際空港(株)への出向や京都西立体交差事業・新名神関連事業を経て、平成26年から現職。



建設監督官
小丸 博司

平成5年、旧建設省に入省。明石海峡大橋関連事業を始め、各地での事業実施計画や調査・設計、広報、道路事業分析評価などを担当。平成25年から現職。

る京奈和自動車道・紀北西道路。近畿圏の交通と物流を大きく変える道路整備事業は、和歌山地域のさらなる発展と人々の笑顔を目標に急ピッチで進められています。